



南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成26年5月30日

校長 福田 俊彦

よりよい授業をめざして

校長 福田 俊彦

新緑が輝きを増しています。遠足での子供の気付きです。飯能の市街地を歩き、山中に入った時のことです。「虫が多いね。」「自然だからだよ。」子供同士の会話です。「涼しいよね。」「どうして町の中より涼しいと思う?」の問いかけに、「土が濡れているから。」「草や木があるから。」「日陰があるから。」子供は、遠足の場でも人、自然、文化、歴史等とのかかわりを創っています。そして、そのかかわりをもとに気付きを広げています。

さて、算数の授業でのことです。この授業のめあては、「2. 14×3.8 の計算の仕方を考える」です。このめあてを授業の最初に子供に示します。子供は、これまでに学習内容をもとに、計算の仕方を考えていきます。ノートに計算の順番を表していく子供がいます。式の横に計算の仕方を書き加えていく子供がいます。そして、全体で計算の仕方について話し合う時間です。この時間が大事です。考えたことを友達に伝えていく場面です。聞き手の子供は、自分の考えと比べながら聞く場面です。

最初の子供が計算の順番を説明します。「あー。」と納得の声が聞き取れました。次の子供が説明をします。今度は、黒板に書かれている式の数字を指さしながら、計算の仕方を説明していきます。同じ式の計算について説明をしているのですが、それぞれの子供の言葉が聞いている子供に染み渡ってくるように感じます。それは、自分の言葉で話しているからです。説明が繰り返される中で、聞いている子供の理解が深まっていくように思えます。説明が、より具体的に、計算の順番と説明の言葉が分かりやすく繋がっていくからです。

子供が話し合う、説明する、質問するなどの場面は、自分の学習という意識を高めていきます。授業の終わりには、子供たちに、振り返りをさせます。どのような学習を、どのようにしたかを、自分に問いかける時間です。ある子供の振り返りの内容です。「説明が自分なりにうまくできた。」「もっと計算したい。」この子供の言葉をどのように思われるでしょうか。私は、この授業を見ていて、子供が45分前の自分よりもやり遂げたという思いをもてるように思えました。次の学習に楽しみを感じているように思えました。授業中の子供のきらきらとした目の輝きは、すばらしいものです。

南町小学校では、学校通信4月号でお知らせをした授業がひとつでも多く行われるよう工夫を積み重ねています。5月の公開授業、道徳授業地区公開講座には、多くの保護者、地域の皆様にご来校をいただきました。ありがとうございました。今後とも、学校公開、学校行事の機会には、多くの方々によりよい授業を見ていただけるよう尽力をして参ります。よろしく願いいたします。